

研究・調査報告書

報告書番号	担当
215	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Predictors of betel quid chewing behavior and cessation patterns in Taiwan aborigines. 台湾原住民におけるびんろうじを噛む行動と止めるパターンの予測因子	
執筆者	
Lin CF, Wang JD, Chen PH, Chang SJ, Yang YH, Ko YC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
BMC Public Health. 2006 Nov 3;6:271.	
キーワード	
びんろうじ、台湾原住民、喫煙、アルコール、有病率、中止率	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>びんろうじ (Betel)は世界中で 6 億人に噛まれているが、幅広く用いられている中毒性の物質の一つである。Betel を噛むことを止めさせる因子は不明である。本研究は台湾原住民における betel quid chewing の有病率と中止率を検討することである。われわれの目標は噛むことを中止することの潜在的予測因子を正確に描写することである。</p> <p>方法：</p> <p>層別ランダム抽出された地域における調査が、台湾の原住民共同体全体に対して企画された。7144 人の対象者が 2003 年 6 月から 2004 年 5 月に研究に参加した。性別、年齢、肥満、教育年数、婚姻状態、人種などの社会人口学的特性、betel quid chewing の習慣、喫煙と飲酒が訓練を受けた面接者によって収集された。</p> <p>結果：</p> <p>betel quid chewing の有病率は 46.1%であった。Betel quid chewing は肥満と関連していた (OR=1.61; 95% CI: 1.40-1.85)。Betel quid chewing はアルコールと喫煙と同時にされることが多かった。Betel quid chewing の中止率は 7.6%であった。アルコールを飲まない Betel quid を噛む人が止めやすかった (OR=1.89; 95% CI: 1.43-2.50)。アルコールの使用は betel quid chewing の中止と有意に関連する因子であったが、喫煙はそうではなかった。</p> <p>結論：</p> <p>台湾原住民には betel quid chewer の割合が高く、中止率が低かった。アルコール使用は betel quid chewing と強く関連していた。習慣的なアルコール消費を減らす努力をすることは、betel quid chewing を止めることの役に立つかもしれない。</p>	